

# I 特集 国際的視座のもとでの個別研究

## 特集のことば

名古屋大学大学院環境学研究科専任講師

青木 聡子

### なぜドイツなのか：私の場合

「なぜ、ドイツの事例なのですか。」ドイツの社会運動、なかでも原子力施設反対運動をはじめとする環境運動を研究対象としてきた私は、普段からこのように問われることが多い。端的にいつてしまえば、ドイツの社会運動やその担い手の人々に魅力を感じ、惹きつけられるからドイツの事例を取り上げてきたのだが、「ドイツの社会運動やその担い手の人々が好きだからです」では、あまりにお粗末な回答なので、なぜドイツの社会運動に魅力を感じ惹きつけられるのか、なぜとりわけ原子力施設反対運動なのか、以下のような説明をしてきた。

まず、ドイツの原子力施設反対運動を環境運動の成功事例として論じやすいため、という説明である。ドイツでは2000年に連邦政府のエネルギー政策が脱原発へと転換されたが、その背景には、1970年代後半以降に本格化した原子力施設反対運動が存在する<sup>1)</sup>。それに対して、他の先進工業国の原子力施設反対運動は、脱原発という成果を達成するに至っていない場合がほとんどである。住民たちの抵抗として始められた社会運動が全国的な「うねり」となり政策転換に影響を与えるまでに発展する場合もあれば、局地的な運動にとどまり、やがて沈静化する場合もある。その違いはどこから生じるのだろうか、環境運動はいかなる条件の下で社会を変える力となりうるのだろうか、という問いを立てるとき、他の先進諸国とは異なるドイツの事例を取り上げることは意義があるのだ、という説明のしかたである。

これに加えて、具体的なデータをみたときにドイツの原子力施設反対運動は他の主要先進国のものと比べて「活発」であり続けてきたため、という説明もできる。独仏米間で原子力施設反対運動の国際比較をおこなったルフト (Rucht 1994) によれば、ドイツにおける原子力施設反対運動は、抗議イベントの件数でも、イベント一件あたりの参加者数でも、他の2カ国を圧倒的に上回ってきた (Rucht 1994: 459-472)。国際的にみて原子力施設反対運動が沈静化してきた1990年代後半以降も、ドイツの原子力施設反対運動は強い動員力を保ってきた<sup>2)</sup>。2000年以降も、脱原発路線に「後退」や「減速」の兆しが確認されると大規模な抗議行動がおこなわれており<sup>3)</sup>、このような例は国際的にみて非常に稀である。これらを踏まえると、なぜ、どのようにして社会運動の動員力や求心力は維持されるのかを問い、抗議サイクルという分析視角に新たな知見を加えうる（さらに大げさに言えば社会運動研究の理論的側面にも貢献できる）として、ドイツの事例を取り上げる意義を説明できる。

## 俯瞰のススメ

自分の研究テーマや分析対象に関して「なぜ、(他の何かではなく) ○○なのか?」と尋ねられたときに、「○○が好きだからです。」だけではなく「なぜ好きなのか、どこに魅力を感じるのか」を答えられるようにしておくことは重要である。というのも、自分で面白いと思って従事している研究テーマや分析対象であっても、その面白さを他の研究者に共有してもらうことが困難な場合も多いからである。このことに関しては私も苦勞してきたが、自分の研究の面白さや意義を説得力あるかたちで説明する際には、上記でおこなったように、国際比較を通じて「大きな見取り図」のなかに自らの研究対象を位置付けることが一つの有効な手段となろう。本来、「大きな見取り図」には、少なくとも、社会学理論という見取り図と現実社会という見取り図との 2 種類がある。双方の見取り図を俯瞰することが必要であるが、紙幅の都合もあるため、本特集では後者に限定した。執筆者の方々には、国際比較をおこなうことで、現実社会の見取り図のなかに自らのフィールドや分析対象を位置付けてもらった。様々な研究テーマに関して、特に条件は設けずに自由に語ってもらっている。おもに実証研究に従事する方々が中心だが、理論研究においても俯瞰することの重要性は変わらないだろう。程度の差こそあれ、論文の「はじめに」や「序論」では、当該対象を論じることの意義を説得力あるように述べなければならない。特に、博士論文や修士論文の執筆にあたっては、冒頭部分で相当数のページを割いて、ときに苦惱しながらおこなわなければならない作業である。既に広い視野のもと研究を進めているの方々にとっては大変失礼な話で恐縮なのだが、本特集が、読者の方々が自らの研究を相対化する契機となり、とりわけ学生の皆さんにとって修論執筆や博論執筆の際の一助になれば幸いである。

## 参考文献

青木聡子, 2009, 「環境運動と環境政策」『名古屋大学社会学会会報』11:9.

Rucht, Dieter, 1994, *Modernisierung und neue soziale Bewegungen: Deutschland, Frankreich und USA im Vergleich*, Camps.

## 注

- 1) 詳しくは、青木 (2009) を参照のこと。
- 2) 例えば、ニーダーザクセン州のゴアレーベンでは 1990 年代半ば以降、ほぼ毎年、高レベル放射性廃棄物の輸送搬入作業に反対する抗議行動が繰り返されてきた。毎年 2 万人あまりが連邦全土から参加する。
- 3) 例えば、2010 年 9 月 18 日には、メルケル政権が国内で稼働中の原子炉の運転期間を平均で 12 年間延長するという方針を決定したことに対して、ベルリンで大規模抗議行動がおこなわれた。参加者は警察発表で 4 万人であり、新聞各紙では 4 万~6 万人規模と報じられている  
(<http://www.tagesspiegel.de/berlin/party-gegen-die-atompolitik/1936496.html>)。